

【口の渇き、頻尿、多尿と精神疾患】(南部)

令和5年5月号『こころの元気+』に上記記事が掲載されていまして、ご紹介します。名古屋大学尾崎紀夫教授の記事です。

【身体・脳・こころを整える ～知っておくべき身体合併症～】にて、尾崎先生は、当事者のアンケート調査の結果、「気になる身体の症状」では、約70%の方が「おしっこに行く回数が多い(頻尿)」の回答でした。約50%が「口の中が渇く」で、約35%が「おしっこが多量に出る」でした。「口喝は糖尿病によるのか、向精神薬の副作用か?」、「水の飲みすぎで血液が薄まると、突然死も起こるのか?」、「精神疾患は泌尿器に影響を与えるのか?」、「薬で喉が渇きやすくなるのか?」等の質問もあった。

我々の脳は、何か困った(生命の維持に関わる)ことがあると、その解決のために身体が反応します。精神疾患の当事者は過剰な不安に陥ることが多く、その結果、唾液分泌が減り「口の中がカラカラ」となり、水分をとりがちです。一部の向精神薬による副作用(抗コリン作用)で口喝が起こることもあります。主治医と相談するのが良いでしょう。

不安や薬の副作用による口喝は、身体が要求しているわけではないので、水を飲むことで水分過剰となり、頻尿・多尿となります。体内の水分が過剰となると、血液が薄まり、血中のナトリウム値及び浸透圧の低下が起こり、意識が無くなる、痙攣が起こるなど危険な状態になるので、入院が必要です。一方、双極性障害の治療薬のリーマス(炭酸リチウム)は、腎臓に働きかけて尿を増やす副作用があります。この場合は、水分を取る必要があります。

精神疾患を持つ方は不安が起こりやすく、交感神経が膀胱の筋肉に働き、尿意が生じて頻尿になることもあります。

糖尿病では、血糖が上昇し尿に糖が漏れますが、濃くなった尿を薄めるため多尿が起こり、結果的に口喝、多飲が起こります。即ち、口喝や多飲は糖尿病のサイン(徴候)ですから血液等の検査が必要となります。

<賛助会員募集>

こころの病いに苦しむ方々の地域支援を主目的に賛助会員を募集します。その趣旨を下記に説明します。

1. 明石市近郊にてこころの病いに苦しむ方々のために何が出来るかを考え、そのための資金として活用します。使途も明確にします。
 2. こころの病いに苦しむ方々への病気に対する知識、リハビリのための講習会の開催を目指します。
 3. 賛助会員になって頂いた方には、明石ともしび会ニュース、総会資料等を配布します。
 4. 明石ともしび会ニュースにて賛助会員をご紹介します。
 5. 総会にて、賛助会員のご紹介と賛助金の使途について、ご報告致します。
- 会費納入方法は、同封の手数料無料の郵便局の振込用紙にてお願いします。



口座記号及び口座番号:00980-7-166023

賛助会員:(個人) 入会金 0円 年会費 1,000円・(法人)入会金 0円 年会費 10,000円

お問い合わせ先 NPO 法人明石ともしび会 理事長 南部 和幸

〒673-0871 兵庫県明石市大蔵八幡町7-11 電話番号 078-912-4433 (さくら工房)

携帯電話 070-1345-8997 E-mail sakura_koubou6687@car.ocn.ne.jp

編集後記

先日、高砂市の精神障害者のあしたば家族会の寺延順市会長とお話する機会を得ました。一時、家族会は休会となっていたようですが、最近復活されたようです。30名程度の家族会会員がおられて、明石ともしび会と同じような規模の家族会です。高砂市議会精神保健研究会の設立に向けて、奮闘されているようです。高砂市議会との打ち合わせを通して、少しでも協力できればと思っています。(南部)